

呉で輝く若者たち

vol.99

ひらかわ たもん
平川 多聞 さん

プロフィール

22歳。音戸地区在住。海産物を扱う丸平水産で働く。高校を卒業後、1度音戸を離れ3年前にUターン。現在は、商品の加工から小売販売など、全国の人へ海の幸を届けている。マイブームは、呉の飲食店でいろいろな人と話す事。



スマホやタブレット端末でQRコードを読み取ると動画を視聴できます。



そんな平川さんには、仕事だけでなく大切にしていることがあると言います。それは「大好きな地元・音戸の人たちが守り続けている祭りを継承すること」です。

平川さんが心がけていることは商品の見せ方。そのため、カキの封詰めの際は、手に取る人に美しいと感じてもらえるよう、カキのおなか部分に切れ目が入っていないか、一つ一つ厳しく選別していると言います。「カキの見た目がきれいで美味しいね」とお客さんから言われたときは、心の中で「よし！と叫んでいます」とにっこり。

音戸の海沿いを車で走ると、ひととき目立つ大きな看板が目飛び込んできます。そこで海産物の加工や販売を担っているのが、平川多聞さんです。高校卒業後、1度地元を離れ、尾道の水産会社で学び、現在は祖父の会社を手伝っています。「生まれた時から、目の前には海、そしてそこに浮かぶカキ筏、汗をかいて働く祖父や父の姿を見て育ちました。音戸での全てが心に染みつき、将来は絶対戻ってこようと思っていました」と教えてくれました。



▲祭りを楽しそうに語る平川さん

音戸の瀬戸三区で行われる秋祭り、5年に1度開催される清盛祭。平川さんは練習から積極的に参加し、地域を盛り立てています。「高齢化により、祭りの伝承者が少なくなっています。小さいころから見てきたにぎやかな祭り。とにかく大切にしたい」と話します。そこで平川さんは、仲間の呼びかけを行ったり、練習風景の動画を残して共有するなど、さまざまな取り組みを行っています。「40年前に響いていた笛の音が、今は途絶えていると聞いて、それを復活させようと準備しています」と打ち明けてくれました。

「音戸から、呉の水産業界を盛り上げるとともに、地域を活性化させるような人になりたい」と話す平川さん。柔らかな表情の中に時折見せる真つすぐな視線は、音戸の未来を明るく照らします。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています

- 再生紙を使用しています
- QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です

10言語対応「市政だより くれ」デジタルブックで配信中！



- ブラウザでもアプリでも、スマホやタブレットで読める
- 文字サイズを調整できる
- 動画や写真も楽しめる
- 10言語で読める・聞ける（音声読み上げ対応※）

無料 FREE APP



【対応言語】

日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）
韓国語、タイ語、ポルトガル語（ブラジル）
スペイン語、インドネシア語、ベトナム語
※ベトナム語は音声読み上げに対応していません。



・ブラウザ版は音声読み上げには対応しておりません。音声読み上げには、無料アプリ（カタボケバ）のインストールが必要です。